

東北大学東北アジア研究センターは、旧ソ連圏と東アジアの相互交流の動態を理解するため 1996 年に研究所組織として設立されました。アジア研究とロシア研究を総合しつつ、文理による学際的連携を意識した様々な研究事業を、国際的な協力体制のもとで展開してきました。25 年にわたる取り組みの中で、われわれ独自の地域研究の体制を構築し、それぞれの課題において国際的に牽引する研究者を抱える組織となっています。このシンポジウムではその研究成果の一端を報告します。とりわけ従来の総合的視座に加えて、域内をより深く掘り下げる探求と、域外との関係を視野に入れた探求の双方が、東北アジア地域のより深い理解をもたらしている事を示すと共に、それぞれの最新知見について討議します。

東北大学東北アジア研究センター創設**25**周年
記念講演会・国際シンポジウム

変容する環境の ダイナミズム

オンライン開催 **参加無料**

2021 **6.26 sat - 27 sun**

要参加登録

登録はこちら



※参加ご希望の方は前日までに登録をお願いします。

記念公開講演会

問合せ

東北大学東北アジア研究センター

✉ cneas25@grp.tohoku.ac.jp 
 URL <http://www.cneas.tohoku.ac.jp>
 〒980-8576 宮城県仙台市青葉区川内41番地
 TEL : 022-795-6244

セッション情報は
こちら



日時 **6.26** 15:00~16:00

アジアの人類史

Two Million Years of Human History in Asia

200万年

講師 **海部陽介氏** (東京大学総合学術博物館教授)

2 00万年以上前の原人の出現にはじまるアジア人類史についての認識が、最近の研究の進展で大きく変化してきている。2004年にインドネシアで、2019年にはフィリピンで身長1メートルほどの小型原人の存在が報告され、学界を驚かせた。さらにシベリアなどへのネアンデルタール人の進出や、デニソワ人と呼ばれる別の旧人類の存在も指摘され、5万年前頃までのアジア各地に多様な古代型人類が暮らしていた実態が判明してきた。しかしアフリカ由来のホモ・サビエンスが当地に出現すると、これらの人類が姿を消しただけでなく、ホモ・サビエンスはそうした先人類の分布域を大きく超えて、寒冷地や島嶼にも広がっていった。この長い歴史の中には、我々とそれ以前の人類の相違点や、人類の多様性の本質など、人類についての重要な問いに答える鍵が隠されているはずだ。本講演ではそのような問題意識に立ちながら、アジア人類史研究の現状を紹介する。

国際シンポジウム

日時 **6.26 sat - 27 sun**

総合セッション **6/26**

東北アジア地域研究の今

- セッション群 **A** 環境から浮かび上がる地域 **6/26**
 A1: 「ジオロジカルサイエンスの国際ネットワーク：展望、そして」
 A2: 「人類の進化と人類が進化させてきた文化の歴史」
- セッション群 **B** 環境と文化保全 **6/27**
 B1: 「近世日本における知識人と社会思想」
 B2: 「災害から生まれたもの」
 危機的状況下での死、災害遺物、文化遺産への対応
 B3: 「地中レーダによる遺跡調査研究」
- セッション群 **C** 東北アジアの政治と社会 **6/27**
 C1: 「東北アジアのエネルギーと環境」
 C2: 「交わる東アジアとアフリカ」
 C3: 「沿岸コミュニティの社会的持続可能性：変容と変形」

国際シンポジウム

セッション情報は
こちら



総合セッション

『東北アジア地域研究の今』

日時 **6.26^{SAT}** 16:30~18:00
(発表言語：日本語)

冷戦終了後の30年は、東北アジアの姿を大きく変えた。域内の政治的・経済的関係はますます密接なものとなる一方で、さまざまな課題も浮上している。このような状況の中で、東北アジア研究の必要はますます高まっている。本セッションでは、この間東北アジア地域研究に関わってきた組織、研究者を招いて、我が国における東北アジア研究の現状を総括するとともに、地域が直面している研究課題について議論する。

発表者

松野周治 (北東アジア学会)
岸上伸啓 (人間文化研究機構・国立民族学博物館)
田畑伸一郎 (北海道大学)
高倉浩樹 (東北大学)

■ セッション群 **A** 環境から浮かび上がる地域 **6/26**

	セッションタイトル	時間/言語	発表者
A1	「ジオロジカルサイエンスの国際ネットワーク：展望、そして」	10:00 - 12:00 (英語)	フローレス・ケネット (ノースカロライナ大学チャペルヒル校) サフォノバ・インナ (ノシビルスク国立大学) ボニフェイス・ネルソン (ダルエスサラーム大学)
A2	「人類の進化と人類が進化させてきた文化の歴史」	12:30 - 14:30 (英語)	佐野勝宏 (東北大学) 藤田祐樹 (国立科学博物館) 河田雅圭 (東北大学) 菊水健史・永澤美保 (麻布大学)

■ セッション群 **B** 環境と文化保全 **6/27**

	セッションタイトル	時間/言語	発表者
B1	「近世日本における知識人と社会思想」	10:00 - 12:00 (日本語)	ミヒャエル・キンスキー (フランクフルト大学) シーリー・シェブキン (ロシア科学アカデミー東洋古典籍研究所) 高野信治 (九州大学) 藤方博之 (東北大学)
B2	「災害から生まれたもの 危機的状況下での死、災害遺物、文化遺産への対応」	13:00 - 15:00 (日本語・英語)	エリザベス・アンステット (フランス国立科学研究センター) 間芝志保 (独立行政法人日本学術振興会) ボレー・ベンメンレン・セバスチャン (東北大学) 大村哲夫 (東北大学) スハデイ (スナンカリジャガ国立イスラーム大学) 工藤さくら (国立民族学博物館) 木村敏明 (東北大学) 小谷竜介 (国立文化財機構文化財防災センター) 谷山洋三 (東北大学)
B3	「地中レーダによる遺跡調査研究」	12:30 - 14:30 (日本語)	吉村作治 (東日本国際大学) 黒河内宏昌 (東日本国際大学) Gad El-Qady (エジプト国立天文学) 城倉正祥 (早稲田大学) Dean Goodman (GPR-SLICE(c)) 金田明大 (奈良文化財研究所) ナワビ矢麻 (埼玉県立さきたま史跡の博物館) 東 憲章 (宮崎県埋蔵文化財センター) 佐藤源之 (東北大学)

■ セッション群 **C** 東北アジアの政治と社会 **6/27**

	セッションタイトル	時間/言語	発表者
C1	「東北アジアのエネルギーと環境」	10:00 - 12:00 (日本語)	金振 (地球環境戦略研究機関) 金丹 (東北大学) 大塚健司 (日本貿易振興機構アジア経済研究所) 明日香壽川 (東北大学)
C2	「交わる東アジアとアフリカ」	13:00 - 15:00 (日本語)	川口幸大 (東北大学) 小川さやか (立命館大学) シ・ゲンギン (立教大学) 艾焜 (東北大学) 松本尚之 (横浜国立大学)
C3	「沿岸コミュニティの社会的持続可能性：変容と変形」	15:30 - 17:30 (英語)	ジェシカ・ブラック (グウィチン・ネーション、アラスカ大学フェアバンクス校) コートニー・カロタース (アラスカ大学フェアバンクス校) 三木奈都子 (国立研究開発法人水産研究・教育機構) ジョン・モック (テンプル大学) 岩崎慎平 (福岡女子大学)

オンライン開催

2021 **6.26^{SAT} - 27^{SUN}**

要参加登録

登録はこちら



参加無料

※参加ご希望の方は前日までに登録をお願いします。

Dynamism in Changing Environment

変容する環境の

ダイナミズム